

2017年9月期 第1四半期決算説明資料

2017年2月6日

ステークホルダーの皆様へ

当社は、2017年2月6日に2017年9月期第1四半期決算を発表いたしました。昨年9月の**東京証券取引所市場第一部への市場変更**を経て、順調な業績を取めることができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と感謝しております。


当第1四半期の大きなトピックスとして、**2016年11月30日の株式会社シスウェーブの完全子会社化**がございます。これにより当社は、**情報サービス事業を営む4つの事業会社を傘下に持つ純粋持株会社**となり、グループとしては、ソフトウェア開発事業をコアに事業を展開しております。特に、**参入障壁が高いとされる自動車産業向け組込み系（エンベデッド）分野**に強みを持ち、**車載機関連で発展**を遂げてきたことが特徴です。

当社は、従来より『**I o T / I o Eソリューション**』を**成長戦略の柱**と定め、その一環として、半導体関連事業の取り込みを検討しておりました。第4次産業革命ともいわれるI o Tでは、各種デバイスが「べき乗」で増加することが予想されています。当社グループの**I T技術**にシスウェーブ社の**半導体設計・テスト・ノウハウ**を融合することで、**「安心・安全・豊かな社会」の実現**へ向けたグループ戦略が大きく前進すると考えております。

当社グループは、**「安心・安全・豊かな社会」を実現**すべく皆様からのご期待にお応えできる企業体を目指します。**「自動運転」、「デジタルサイネージ」、「フィンテック」、「VR/AR」、「AI」、「ロボット」**等のキーワードに**「M&A戦略」**を加え、**グループの拡大戦略を加速**してまいります。

引き続きご支援のほど宜しくお願い致します。

PCIホールディングス株式会社
代表取締役社長



1. 既存事業の好業績に加え、M&Aの寄与により前期実績を大幅に上回る売上高 ⇒ P6

<2016/9>
通期実績：8,504百万円
1Q売上高：2,063百万円
通期進捗率24.2%

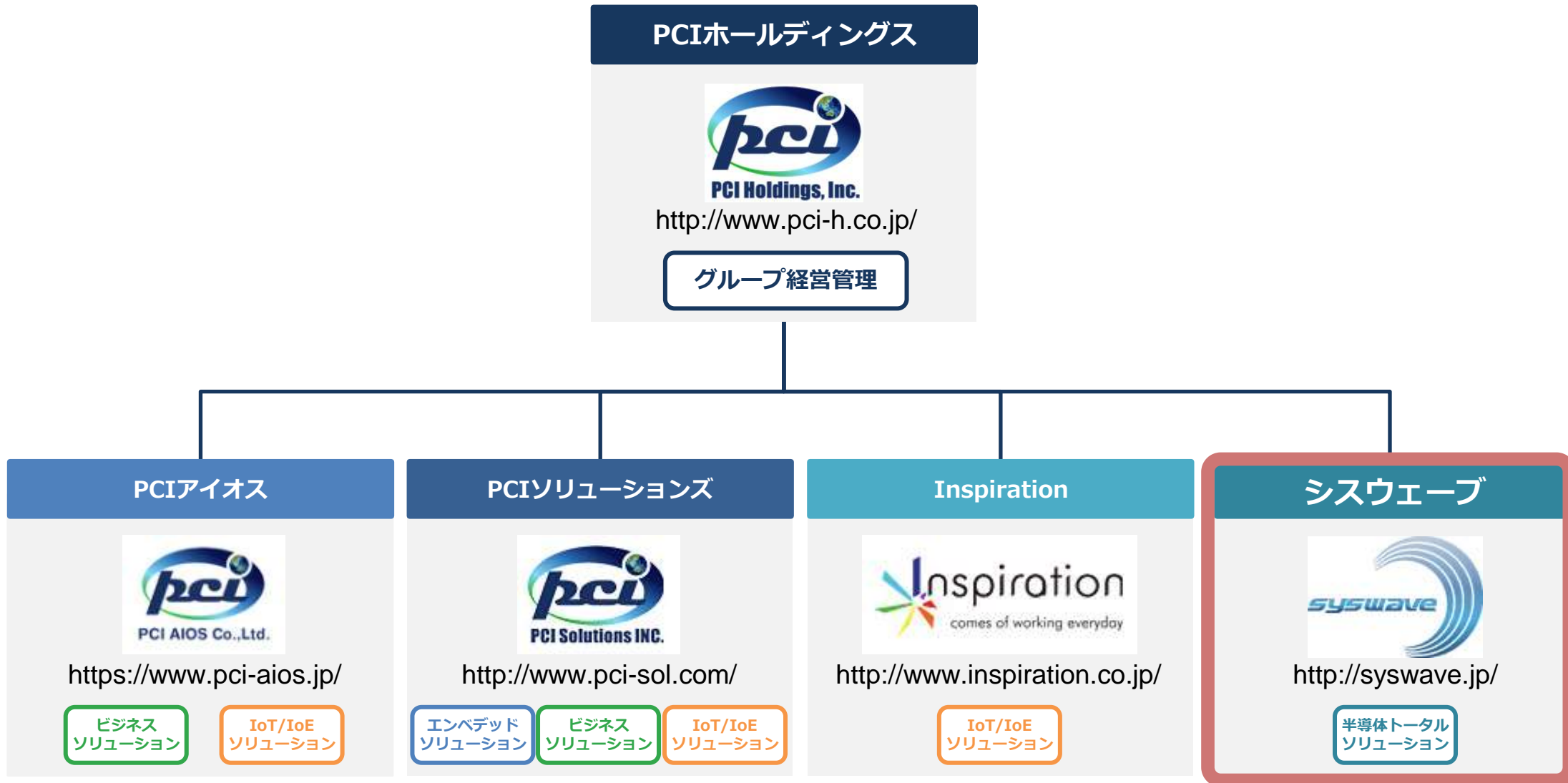
<2017/9>
通期計画：10,500百万円（23.5%増）
1Q売上高：2,554百万円（23.8%増）
通期進捗率24.3%



2. 引き続き「安心・安全・豊かな社会」の実現と、次世代技術の創出に向けた研究開発にも注力 ⇒ P9~

- ・ 『V-Lowマルチメディア放送「i-dio」』事業
- ・ 車車間通信を可能にする「V2Xユニット」のソフトウェア開発
- ・ 総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワーク活用に関する研究会」への参画
- ・ 再生可能エネルギーのO&Mサービス、情報セキュリティ分野への継続的取り組み

2016年11月30日 株式会社シスウェーブを子会社化



<参考資料> 事業区分の推移について



2015年9月期

情報サービス事業

テクニカルソリューション事業

エンベデッドシステム分野

ビジネスシステム分野

ビジネス
ソリューション事業

IoT/IoE
ソリューション事業

2016年9月期

情報サービス事業

エンベデッド
ソリューション事業

ビジネス
ソリューション事業

IoT/IoE
ソリューション事業

2017年9月期

ITソリューション事業

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

New

半導体トータル
ソリューション事業

お陰様でPCIホールディングス株式会社は
東京証券取引所 市場第一部へ
上場いたしました。

PCIグループ

- PCIソリューションズ株式会社
- PCIアイオス株式会社
- Inspiration 株式会社
- 株式会社シスウェーブ** New!



1. 決算概要	5 ページ
2. 重点施策	8
3. 資本政策及び株主還元方針	25

4. 業績推移	28 ページ
5. 参考書類	31

1. 決算概要



2017年9月期 第1四半期決算業績サマリー



売上高：既存事業の順調な成長及び半導体トータルソリューション事業の寄与により、売上高は**前年同期比23.8%増**と高水準で着地した。

売上総利益：高収益ビジネスであるIoT/IoEソリューションと半導体トータルソリューション事業が共に寄与し、**売上総利益が前年同期比32.3%増（売上総利益率は+1.6pt）**と大幅に成長した。

経常利益：シスウェーブ社の子会社化に伴う**M&A費用等の負荷**や、**先行投資である研究開発費**を吸収し、**前年同期比38.3%増（経常利益率は+0.9pt）**となった。

(百万円)	16年9月期	17年9月期 (計画)						通期計画 進捗率
	第1半期 実績	第1四半期 実績	前年同期比増減	第2四半期 見込	上期計画	下期計画	通期計画	
売上高	2,063	2,554	23.8%	2,635	5,190	5,310	10,500	24.3%
売上総利益	479	633	32.3%	668	1,302	1,302	2,604	24.3%
(売上総利益率)	23.2%	24.8%	(+1.6pt)	25.4%	25.1%	24.5%	24.8%	-
営業利益	160	222	38.8%	199	422	268	690	32.3%
(営業利益率)	7.8%	8.7%	(+0.9pt)	7.6%	8.1%	5.0%	6.6%	-
経常利益	161	223	38.3%	198	422	273	695	32.2%
(経常利益率)	7.8%	8.7%	(+0.9pt)	7.5%	8.1%	5.1%	6.6%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	104	140	34.0%	130	271	179	450	31.3%
(当期純利益率)	5.1%	5.5%	(+0.4pt)	4.9%	5.2%	3.4%	4.3%	-
EPS	-	37.48円	-	-	-	-	119.85円	-
ROE	-	4.5%	-	-	-	-	-	-

※第2四半期見込に記載の数値には、(上期計画) - (第1四半期実績) を記載

エンベデッドソリューション

～前年に引き続き、好調に推移～

- グループの開発実績と自動車業界における最新技術を用いた**安全運転支援システム**を搭載したスマートカー開発等の需要が好調で、**引き続き新規顧客からの引き合いが増加**。
- 得意とする車載関連、重機・建機等の自動車産業向け組み込み系ソフトウェア開発では、既存顧客からの**カーナビゲーション開発・チップセット開発案件が計画的に受注**。
- **車載系ECUモデルベースやAUTOSAR（車載ソフトウェアプラットフォームの仕様名称）開発案件**の受注が引き続き拡大。

ビジネスソリューション

～BP強化で事業規模が拡大～

- ビジネスパートナーとの更なる**アライアンス強化、及び戦略的な商流の切り替え**促進に取り組むことで、**多岐にわたる顧客需要に応え**、既存取引先との深耕拡大、新規顧客の開拓に注力。
- 企業向けソフトウェア開発では、**クラウドアプリケーション導入支援案件**が好調に推移。
- 金融機関向け案件及び流通系案件が引き続き堅調に推移。

IoT / IoE ソリューション

～自動車向け、エネルギー業界向けは好調に推移～

- 平成28年3月より放送が開始された『V-Lowマルチメディア放送「i-dio」』のコンテンツ拡充に伴う開発案件が堅調に推移したものの、同案件の放送開始に伴う**プラットフォーム一括請負開発の特需があった前年同期には至らず**、売上高は微減。
- 自動車販売店向けソリューションにおいては、**既存サービスの機能改修及び大型システム改修案件が好調に推移**。
- エネルギー業界向け分野においては、**発電所事業支援サービスの計画的な受注により、堅調に推移**。

半導体トータルソリューション事業

～主要顧客からの引き合いが好調に推移～

- 国内半導体市況の好調を背景に主要顧客からの引き合いが旺盛。
- **自動車向け半導体及びFA向け半導体案件、並びにパワーアナログ半導体案件等の顧客需要の拡大**に呼応して当社グループの開発業務受託が好調に推移。
- スマートフォン向けの需要減少の影響が懸念されるイメージセンサ案件についても、**車載カメラ等スマートフォン以外への採用**が推進されたことにより、既存顧客からの引き合いが継続する中で好調に推移。

2. 重点施策



1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

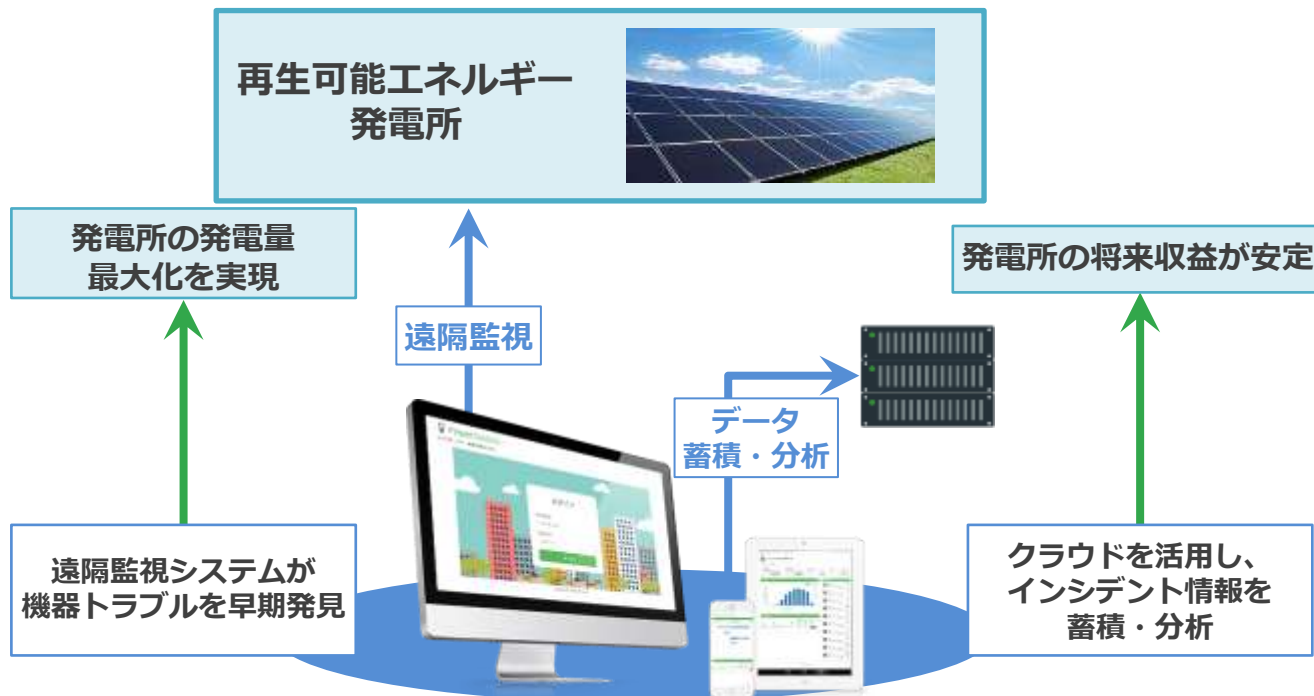
再生可能エネルギー「Power Station」

Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（O & M業務）を支える統合管理システムです。当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- ・当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能
- ・大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（IT分野）の3社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富
- ・再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- スtring単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注状況

- 2015年9月 2拠点（実績）
- 2016年9月 4拠点（実績）
- ~2018年各期 3~5拠点（見通し）

1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

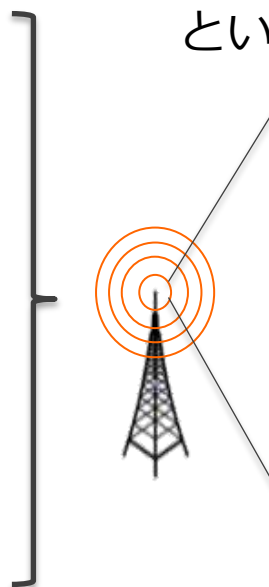
- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

V-Lowマルチメディア放送『i-dio』による新しいサービス

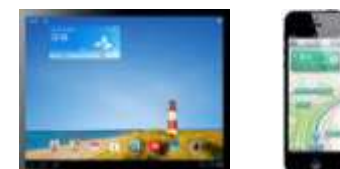
- ☆ 2016年3月1日 **プレ放送**開始（福岡・東京・大阪）
- ☆ 2016年4月18日 アマネク社が九州地方へ向けた**通行実績情報の提供**を開始
- ☆ 2016年7月1日 **本放送**開始、東海地区、静岡へもエリア拡大

マルチメディア放送

音楽や音声を含めたあらゆるものを**デジタルファイル化**。ファイルには、**位置情報を付加して**、放送という方式で**一斉同時配信**を行う。



カーナビ・カーオーディオ



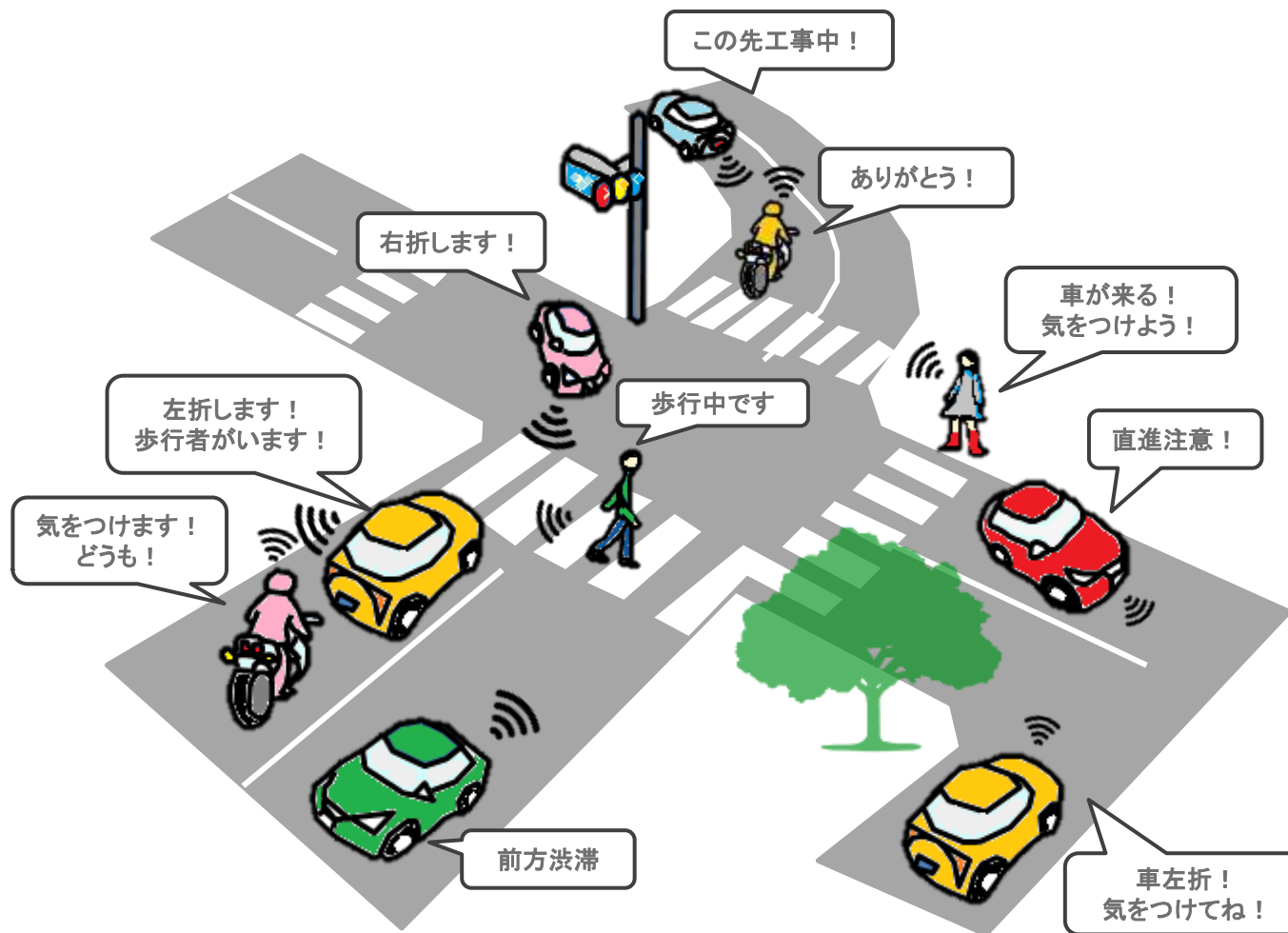
スマホ・タブレット



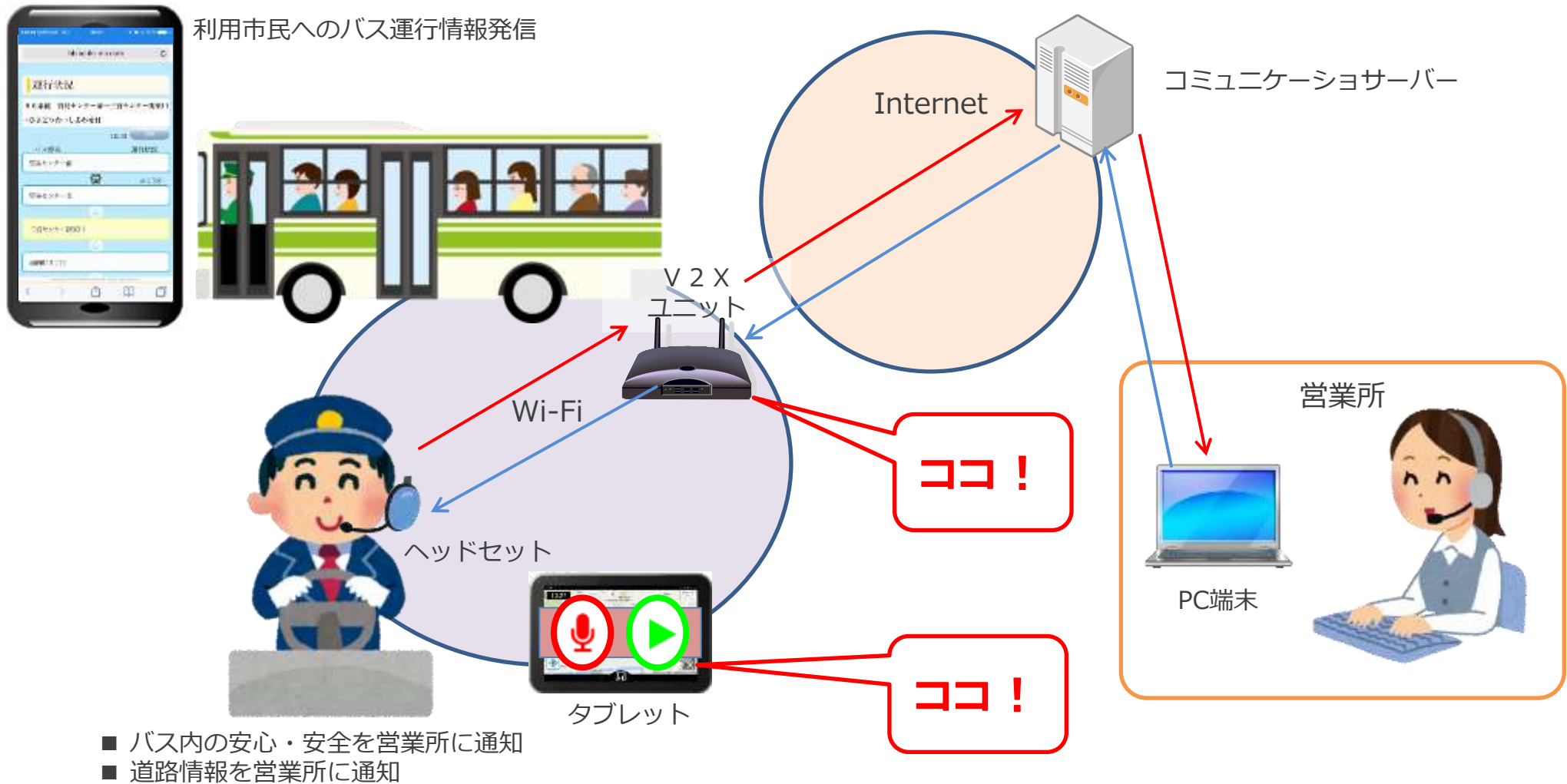
屋外サイネージ

V 2 X (Vehicle to X) : 車車間通信

V 2 Xとは、自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やもの (X) とを通信でつなげること。当社はV 2 Xを実用化する為の**V 2 Xユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン (会員: 35企業・団体 4自治体 2016年3月15日時点) を通じてV 2 Xを活用した新サービスをお客様へ提案しています。



神戸市バスにおける「V2X」ユニットの運用・利用イメージ (安心・安全・豊かな社会)

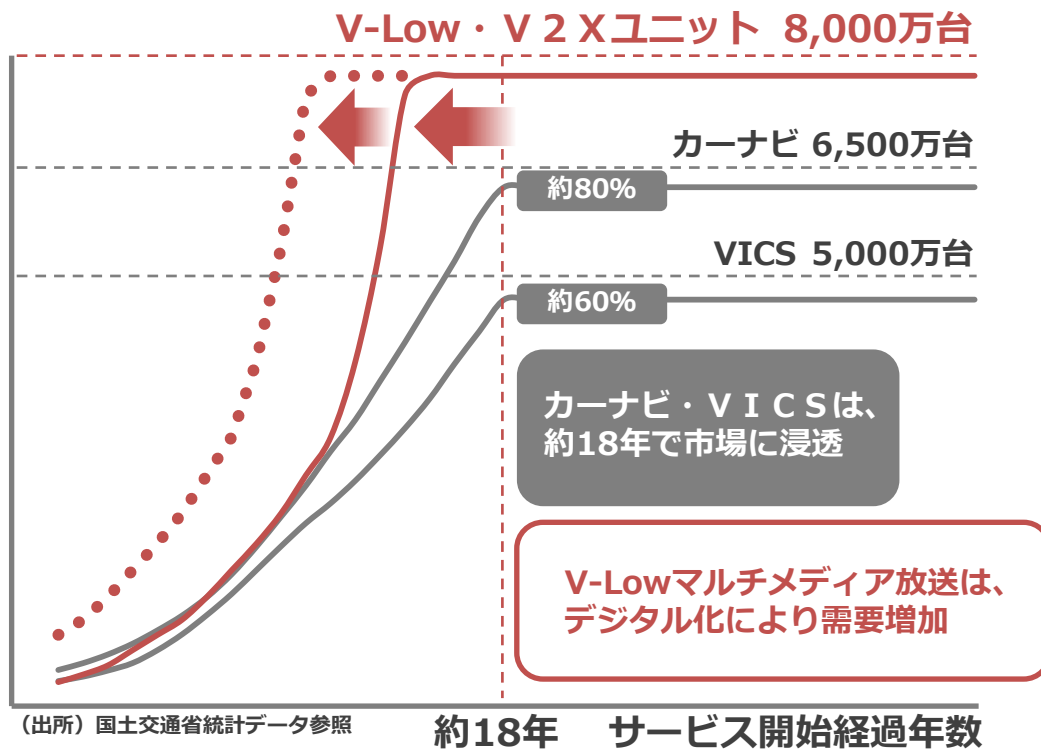


【参考】市場規模の考え方

V-Lowマルチメディア放送、V 2 Xユニットの市場規模

【普及台数の市場浸透イメージ (注)】

サービス導入車数



想定市場規模

4輪：7,750万台
2、3輪：365万台



合計 約8,000万台

(出所) 一般社団法人 自動車検査登録情報協会HP

バス・タクシー向けV 2 Xユニット活用

【バス保有台数】

ランク	社名	台数
1	神奈川中央交通	1,964
2	西日本鉄道	1,928
3	東京都交通局	1,452
4	北海道中央バス	1,150
5	名古屋市	1,032
6	阪急バス	938
7	国際興業	907
8	東急バス	892
9	西武バス	852
10	京成バス	796
25	神戸市交通局	518
国内計		48,995

(出所) 国道交通省統計データ参照

【タクシー台数】

区分	事業者数	台数
法人	15,271	203,943
個人	39,304	39,304
合計		243,247

※個人は1人1車制

※車両数は、管理課「自動車保有車両数月報」による
(出所) 一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会

1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

2016年11月30日 株式会社シスウェーブを子会社化

シスウェーブ



<http://syswave.jp/>

半導体トータルソリューション

テスト、アナログ、画像処理をコアコンピタンスとして、LSI設計・テスト、FPGA、システム機器、ソフトウェア開発まで、さまざまな製品開発に先進のテクノロジーを提供。



「車載」分野でのシナジー効果！

1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

- ☆ 2016年1月20日 **研究会開催**の報道発表
- ☆ 2016年1月26日から開催され、同年6月29日に「**中間取りまとめ**」が公表された

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」を開催。

☆ **主な検討事項**

- (1) 災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケース**と、**その実現手段**
 - (2) アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
 - (3) アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性** 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

☆研究会構成員

(主査)東京工業大学大学院 理工学研究科 教授 高田 潤一

東京大学 生産技術研究所教授 大口 敬

(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所
ディペンダブルワイヤレス研究室長 三浦 龍

(株)トヨタIT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー 大西 亮吉

本田技研工業(株)四輪事業本部 事業企画統括部
グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師 大石 康夫

(株)NTT ドコモ R&D イノベーション本部
サービスイノベーション部 担当課長 堀口 賞一

ソフトバンク(株)プロダクト本部 法人プロダクト企画部
プロダクト企画3課 課長 松本 善徳

(株)KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当 田中 英明

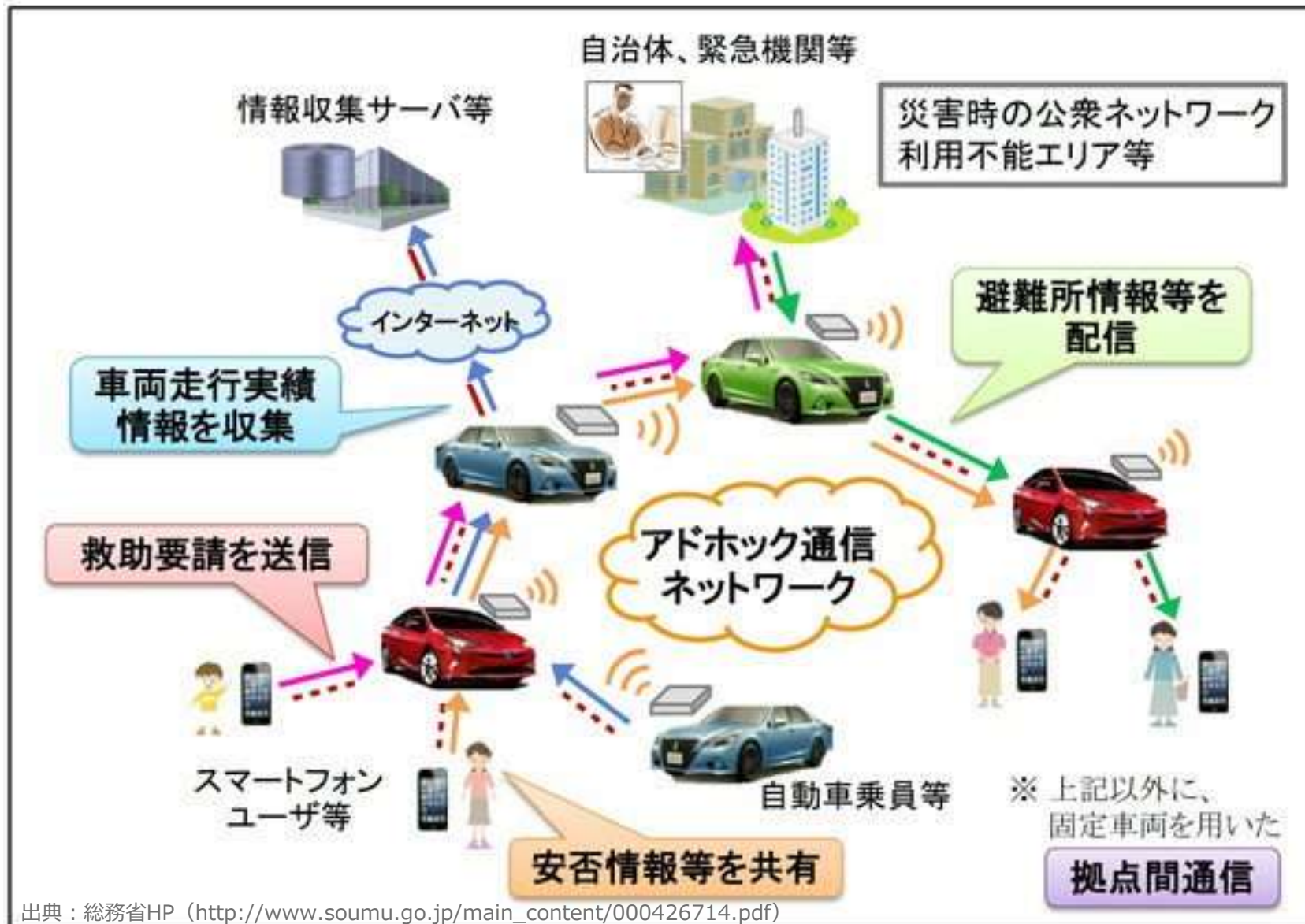
日本電気(株) システムデバイス事業部 技術部長 渡邊 敏博

沖電気工業(株)社会システム事業本部
交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 部長 浜口 雅春

PCI ソリューションズ(株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長 清宮 幸夫

(順不同、敬称略)

総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」に構成員として参画



出典：総務省HP (http://www.soumu.go.jp/main_content/000426714.pdf)

ヒトとあらゆるモノを結びつける
IoT時代に最適な
コミュニケーションツール

A-ya



特徴

- BLE技術を使い、低消費電力で稼働します。
- 双方向通信を実現。
- 出力調整により有効通信範囲を可変できます。
- ビッグデータの収集ポイントとして活用可能。
- ヒト側、モノ側それぞれにSDKを準備。
- 最少開発期間で既存システムに組み込み可能です。



いまや多くの人が持つスマートフォンをヒト側のインターフェイスとして位置付け、身の回りにある様々な機器と能動的にコミュニケーションをとることで、便利で快適な日常を創りだすことを目的に開発されたのが、『A-ya』です。

活用事例



2015年12月9日

株式会社ZenmuTechとの協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱い開始

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社ZenmuTech（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。ZenmuTech社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「ZENMU（ゼンム）」（以下、ZENMU）を開発しております。ZenmuTech社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてZENMUの取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。

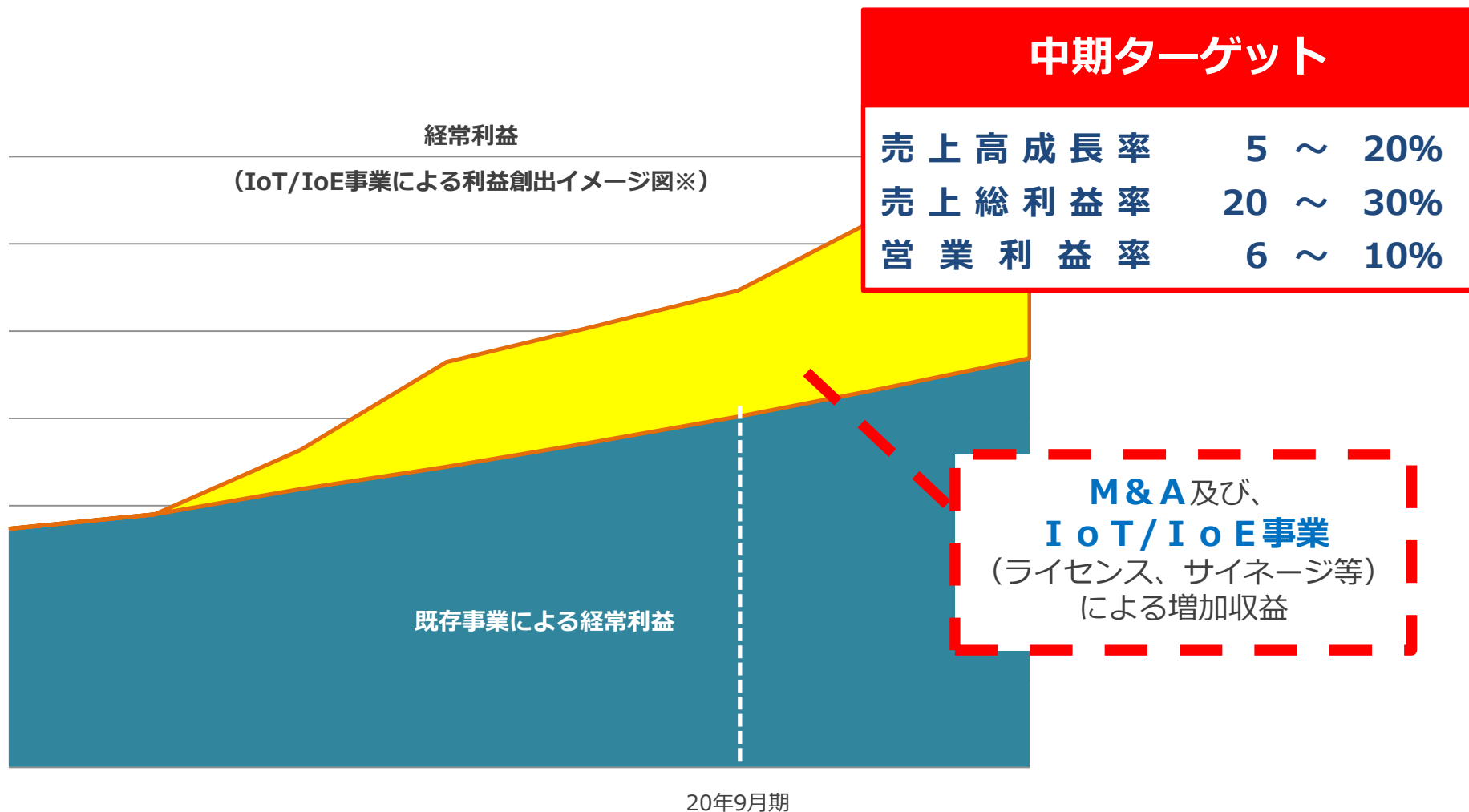
※2017年2月1日より、株式会社TCSIは、株式会社Zenmuへ社名変更いたしました。また、商品名を「PASERI」より「ZENMU」へ変更しております。



3. 資本政策及び株主還元方針



2016年9月期実績に基づく収益構造と中期ターゲット



※ IoT/IOE事業による利益創出イメージ図は、現在織り込んでいないM&A、V2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送、デジタルサイネージ等の新しい取り組みによる収益を反映させた予想値をグラフ表示しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、当社計画値を表すものではありません。

株主還元方針

安定した配当を維持継続し、業績に裏付けられた更なる配当水準の向上
[連結配当性向：30%～50%を目安とする]

配当推移

	2013年9月期 (実績) (未上場時)	2014年9月期 (実績) (未上場時)	2015年9月期 (実績)	2016年9月期 (実績)	2017年9月期 (予想)
年間配当金	32.5円	35円	40円 (普通配：35円) (記念配：5円)	50円 (普通配：40円) (記念配：10円)	50円 (普通配：50円)
配当性向	—	—	34.0%	42.1%	—

(注) 平成27年3月23日付で普通株式1株につき100株、平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

4. 業績推移



(1) 連結損益計算書



(百万円)	2016年9月期				2017年9月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q (実績)	2Q (見込)	下期計画	通期計画
売上高	2,063	2,198	2,005	2,236	2,554	2,635	5,310	10,500
エンベデッドソリューション	938	1,062	980	1,129	977	-	-	-
ビジネスソリューション	923	910	872	913	1,058	-	-	-
IoT / IoE ソリューション	201	225	152	193	192	-	-	-
半導体トータルソリューション	-	-	-	-	325	-	-	-
売上原価	1,584	1,643	1,508	1,786	1,920	1,967	4,008	7,896
売上総利益	479	554	497	449	633	668	1,302	2,604
エンベデッドソリューション	202	260	225	212	227	-	-	-
ビジネスソリューション	206	220	220	184	222	-	-	-
IoT / IoE ソリューション	70	73	51	52	71	-	-	-
半導体トータルソリューション	-	-	-	-	111	-	-	-
販管費	318	342	384	345	411	-	-	-
営業利益	160	212	112	104	222	199	268	690
営業外収益	2	10	2	1	1	0	0	0
営業外費用	1	1	1	11	0	0	0	0
経常利益	161	221	114	95	223	198	273	695
税前利益	161	221	114	95	223	198	273	695
法人税等	56	63	40	28	82	68	94	245
親会社株主に帰属する当期純利益	104	157	73	66	140	130	179	450

※半導体トータルソリューション事業については、2017年9月期より追加された区分であるため、前期売上実績の内訳は掲載せず

(2) 連結貸借対照表



(百万円)	2015年9月期				2016年9月期				2017年9月期
	1 Q (参考)	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864	3,204	3,898	3,694
現預金	819	700	790	1,489	1,127	1,005	1,571	2,239	1,499
売上債権	1,361	1,446	1,305	1,270	1,587	1,567	1,346	1,419	1,884
その他	238	304	262	327	248	291	286	238	310
固定資産	330	323	330	198	310	470	476	480	628
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378	4,322
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005	1,258	1,119	1,090
仕入債務	338	211	198	230	438	303	284	282	324
その他	1,119	1,164	1,001	866	667	701	973	837	766
固定負債	61	65	70	74	77	82	99	103	122
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183	1,087	1,357	1,222	1,213
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090	2,248	2,322	3,155	3,109
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378	4,322

※2015年9月期第1四半期は、参考数値。

5. 参考資料

- 会社概要 **概要**
- 事業解説 **解説**





企業理念

我々は、**お客様の満足**を通じて
全社員の幸せを追求し、
そして**社会の発展**に貢献します。

行動方針

- 安定した事業成長を実現します
- ユーザに適したソリューションを提供します
- 応援して頂ける企業を目指します
- 積極的（**P**）に変化（**C**）を求め、革新（**I**）します
- 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

(注) **P** : Positively **C** : Change **I** : Innovate

PCIホールディングス (純粋持株会社) 設立：2005年4月

PCIアイオス

代表者： 関谷 恵美
柴田 敦
設立： 2002年12月
資本金： 4,500万円

PCIソリューションズ

代表者： 天野 豊美
設立： 2012年9月
資本金： 3億6,000万円

Inspiration

代表者： 岩橋 正治
設立： 1997年11月
資本金： 3,000万円

シスウェーブ

代表者： 西村 光太郎
設立： 2012年2月
資本金： 9,000万円

PCIアイオス



<https://www.pci-aios.jp/>

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

オープンソースソフトウェアを活用した、短期間且つ高品質な開発を得意とするソフトウェア開発事業会社。

- オープンソースソフトウェアによるITシステム構築需要に応える他、業種特化した自社開発ソフトウェアパッケージを有し、その販売ならびに当該業種の業務知識を活用したコンサルティングも実施。
- オープンソースソフトウェアとクラウドのノウハウを活かした再生可能エネルギー関連データ収集IoTデバイスや収集したデータ分析を行う。
- クラウド運用サービスまで一括して受託するビジネスを担う。

PCIソリューションズ



<http://www.pci-sol.com/>

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

当社グループの連結売上高の約90%を占めるソフトウェア開発事業会社。

- 参入障壁が高いといわれる自動車産業向け、通信端末、情報家電等の様々な電子機器を制御する組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み。
- 一般事業法人向けソフトウェア開発においては、幅広い分野でお客様の需要に応えている。
- システム開発だけでなくIT人材の育成を目的に教育にも力を入れ、システムと人の両面から顧客に最適なソリューションを提供。
- 加えて、組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発で培った技術を基に、自動車産業関連のIoT/IoEソリューションへも展開している。

Inspiration



<http://www.inspiration.co.jp/>

IoT/IoE
ソリューション

少数精鋭による高スキルエンジニア集団のソフトウェア開発事業会社。

- 自社で開発した開発フレームワークを活用した短期間開発が特色。
- 自動車販売店向けソフトウェア開発を得意としており、特にIoT/IoEソリューションとしてのWebサービスの構築・販売に強みを持つ。
- 自動車業界における豊富なサービス運用実績より生み出されたノウハウを基に、システム開発、Webデザイン、コンテンツ制作、ヘルプデスク業務をワンストップで提供している。

シスウェーブ



<http://syswave.jp/>

半導体トータル
ソリューション

半導体の回路設計・テスト開発の各種受託サービス、テストハウス事業を手掛ける半導体開発事業会社。

- 半導体デザイン・テストソリューション（回路設計・検証、テスト開発・評価・解析）及びシステムソリューション（システム開発、ソフト開発）分野の技術をもつエンジニア集団。
- 45年以上にわたる半導体開発事業実績を誇り、大手半導体企業からの委託開発により蓄積したノウハウ・高い技術により半導体製品開発のトータルソリューションを提供。
- 自動車をはじめIoT/IoEデバイス、スマートフォン、家電全般に広く利用される技術を提供



さらなる新規事業分野を開拓



シスウェーブ社の
高度な半導体技術

当社グループの位置付け

IoT / IoEソリューション

- 自動車業界およびエネルギー業界向けIoTソリューションを開発。

成長分野

エンベッドソリューションの開発実績を背景にIoT関連開発を行う。
参入障壁は極めて高い。

エンベッドソリューション

- 自動車、重機・建機、車載器、情報家電、モバイル端末、ネットワーク機器などの組込みシステムにかかるソフトウェアを開発。

収益基盤
(安定成長)

製造会社との深いリレーションによる受注。顧客企業との共同開発も実施。
参入障壁は高い。

ビジネスソリューション

- 金融、製造業、交通、放送等の幅広い業種へのITシステムを構築。
- ビジネスアプリケーションの開発およびその付随業務を展開。

高い技術力の
源泉

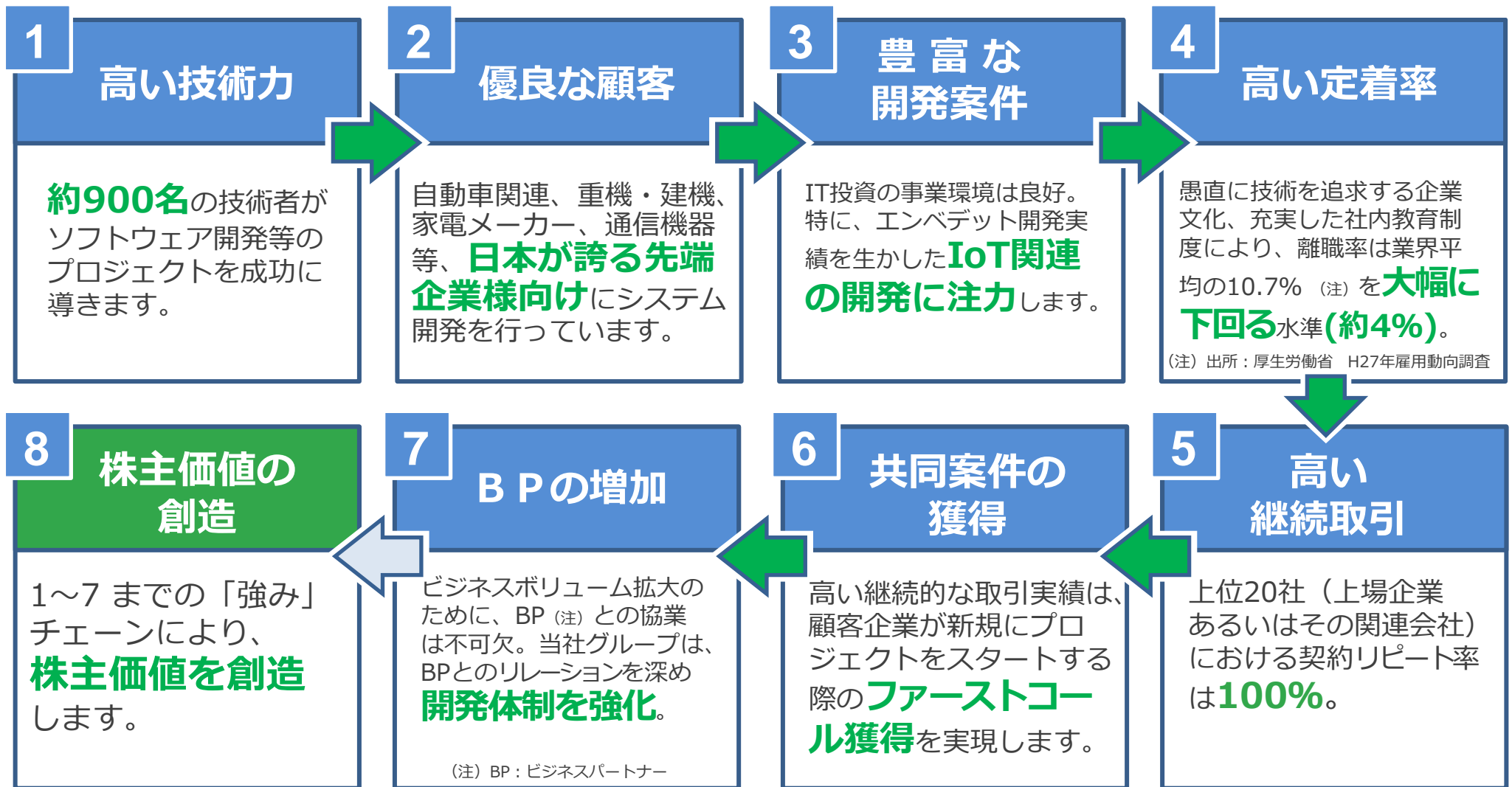
主に大手SIerから当社が得意とする分野の開発を受注。
参入障壁は高くない。

PCIホールディングスの事業基盤

技術力 「ソフトウェア開発力」 × 「アプリケーション開発力」 × 「通信・組込み・半導体」

知的資本 「豊富な開発実績」 × 「優良な顧客」 × 「モラルの高い社員」 × 「プロジェクト管理体制」





(注) 各データは、2016年9月期末時点のもの

- ・エンベデッドシステム（組み込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。
- ・身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。
- ・このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組み込み制御技術を応用したものが、IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。

お客様（主に製造業者）

〇〇な機能を開発して欲しいなあ



要件定義・基本設計

発注

高い参入障壁

製造業者はリコールリスクを回避するため実績・信頼ある企業にのみ発注



開発事例

カーナビ



- ・タッチパネルで画面を切り替える機能

自動車



- ・アクセルを踏むとガソリン噴射量を制御する機能
- ・エンジン、エアコン等の制御機能
- ・センサーによる自動駐車機能

スマートフォン タブレット



- ・ディスプレイ表示の仕組み
- ・アプリケーションの基盤
- ・データ通信機能
- ・電波を切替える機能 等々

デジタルカメラ



- ・画面上のアイコン・ボタンメニュー等を操作する機能
- ・シャッターを押してフォーカスを合わせる機能
- ・画像処理機能 等々

製品にチップセット組み込み

納品

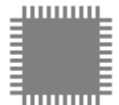
システム開発

詳細設計
↓
プログラミング
↓
テスト



開発したプログラムをチップセットに格納

チップセットとは、ある機能を実現するための集積回路の組み合わせのこと。ソフトウェアの開発力でハードの複雑な機能を実現する。



多岐にわたる機能を必要とする機器のシステムは、最先端技術を駆使し、複数のハードウェア・ソフトウェアを組み合わせ開発しています。

※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

V-Lowマルチメディア放送は、V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態です。

V-Lowマルチメディア放送の特色

- ① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性
- ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報
- ③ 放送地域を分割し、各エリアでのみ受信できるエリア放送も可能
- ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供

	インターネット	マルチメディア放送
送受信	混雑時等に利用できない可能性有	輻輳（パケ詰まり）なし
配信	プル型配信必要な情報だけを取得	強制プッシュ配信も可能
	従来の放送 テレビ・ラジオ・県域放送	V-Low マルチメディア放送
放送エリア	県域放送	地方ブロック
ハード/ソフト	一致	分離
端末	テレビ受像機 ラジオ受信機	車載器・サイネージ・ 携帯電話（スマホ）
ビジネスモデル（収益源）	広告	多彩なビジネスモデル

（出所）エフエム東京HP等より作成

事業解説③ V-Lowマルチメディア放送の概要

解説



事業参入の狙い

- ・ 車載器メーカーを中心に、デジタル化が進む自動車関連業界との関係強化
- ・ 放送と通信の融合による最新サービス開発に携わる事で先行者メリットを享受
- ・ 放送、デジタルサイネージといった新分野への参入を通じた事業領域の拡大

当社の事業範囲

- ・ 車載器向け共通モジュール
- ・ スマートフォン向けアプリ
- ・ 番組配信サーバ
- ・ V-Lowマルチメディア放送コンテンツプロバイダーの『アマネク・テレマティクスデザイン社』へ出資

事業参画企業 (14社)

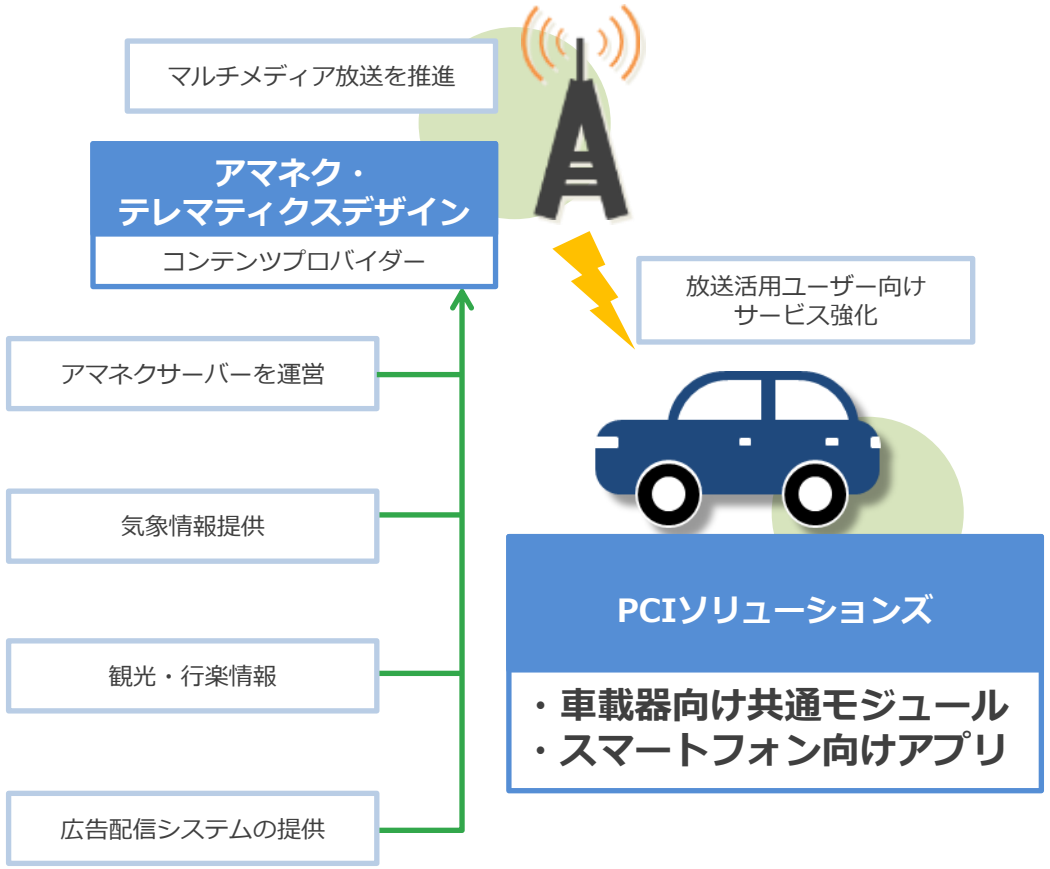
- | | |
|------------------------|-------------------|
| PCIソリューションズ (株) | (株) アイ・トランスポートラボ |
| (株) エフエム東京 | (株) オリエンタルコンサルタンツ |
| オリックス (株) | キャンバスマップル (株) |
| シグノシステムジャパン (株) | 住友電気工業 (株) |
| (株) ゼンリン | 大日本印刷 (株) |
| 一般財団法人 日本気象協会 | |
| バイテックシステムエンジニアリング (株) | (株) シーズラボ |
| (株) ゼンリンデータコム | |



コンテンツプロバイダー

“日本初”モビリティ向けデジタルラジオ放送局
アマネク・テレマティクスデザイン社

2020年以降
 日本のコミュニケーション・プラットフォーム
 として更にエリア拡大



2016年2月23日

「V2Xユニット」を搭載した「市バスを情報通信基地とする実証実験」が開始

- ☆ 2015年12月22日 バスロケーションシステム**実証実験**について**記者発表**
- ☆ 2016年2月23日 **実証実験開始**
- ☆ 2016年4月18日 **第一段階の結果**及び**第二段階の実証実験発表**
- ☆ 2016年7月15日 神戸市交通局より

「バスロケーションシステムの**実証実験結果の報告**について」 **報告**

PCIソリューションズが「**実証事業主体**」として参画

☆実証事業主体

神戸市、一般社団法人Gateway APP Japan、本田技研工業株式会社、株式会社ゼンリンデータコム、ソフトバンク株式会社、**PCIソリューションズ株式会社**

☆今後の展開

- ・PCIソリューションズは、「**V2Xユニット**」を活用した**ソフトウェア開発**に携わる「**実証事業主体**」として参画
- ・**第一段階**の「リアルタイムの市バス運行情報を**オープンデータ化（政令市初）**」及び、**第二段階**の「市バス車両に**デジタルサイネージ・車外カメラ**を設置した更なる情報発信」を実証

IoT (Internet of Things)

コンピューター等の情報・通信機器だけでなく、センサーや家電など様々な「モノ」をインターネットに接続させ、通信させることで、遠隔計測、自動認識や制御等を行うこと。

IoE (Internet of Everything)

IoTよりも広い概念。ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

フィンテック (FinTech, Financial Technology)

ファイナンスとテクノロジーをあわせた造語。ITを活用して金融、決済、財務サービスなどを生み出したり、見直したりする動きのこと。

AUTOSAR : (AUTomotive Open System ARchitecture)

車載ソフトウェアプラットフォームの仕様の名称及び自動車業界のグローバル開発パートナーシップ

BP

ビジネスパートナー企業やその技術者。

V-Lowマルチメディア放送

V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V2X (Vehicle to X)

自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やモノ (X) とを通信でつなげること。

プル型・プッシュ型情報配信

プル型情報配信とは、デバイスがインターネットに繋がったサーバーに対し情報取得をリクエストしてデータを取得すること。
プッシュ型情報配信とは、サーバー側が一方向的に情報を配信しデバイスに表示する仕組みのこと。

O&M (Operation & Maintenance)

運用・保守。

デジタルサイネージ (Digital Signage)

デジタルサイネージとは、商業施設や駅、店頭、公共空間等で、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステムのこと。

オープンソースソフトウェア (Open-Source Software)

ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネット等により無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行えるソフトウェアのこと。

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり 潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

PCI ホールディングス株式会社 グループ戦略室
E-mail ir@pci-h.co.jp

